

2014年10月
秋号

発行日：2014年11月8日

発行者：永井昌史

住 所：西東京市西原町 1-5-13

電 話：042-478-0056

e-mail：info@kodomoamigo.org

アミーゴ通信

アミーゴ 子ども支えあい事業報告・1

「山で遊ぼう！ 自然塾」 活動報告

今年で5回目の実施となる「自然塾」は、学童クラブの卒所生を対象としたキャンプ行事です。

『自然の中で自立性を養う』をモットーに、事前準備として「子ども会議」を開き、「自然塾」の中で何をするか、自炊で何を作るかなどの話し合いを行って、当日に臨みます。

今年は8月15日～17日の2泊3日の行程で、児童18名（男子5名・女子13名）が参加しました。

その報告とスタッフからのコメントを載せたので、そこから少しでも「自然塾」における子どもたちの活躍を臨場感と共に感じ取っていただければ、と思います。

【1日目】

朝8時に田無駅に集合し、子どもたちはひとりの休みもなく、元気に出発しました。西武線とJRを乗り継いで武蔵五日市市へと向かいます。車中では少し遠慮がちでしたが、徐々に打ち解けてきた頃に武蔵五日市駅に到着。駅近くのスーパーマーケットで2泊3日分の買い出しをして、バスで宿泊場へ向かいました。

「つるつる温泉」手前のバス停で降りて、川沿いの側道を上り、「NPO 法人花咲き村」が管理する古民家「滝本」へ到着です。

現地では始めにやることは、テントの割り当てを話し合い、テントを設営することです。

昼食後の最初のプログラムは『まい切り式火起こし』。自然のなかで生活する上で火の大切さを知って欲しいという思いから始まった恒例のプログラムです。アミーゴの学童クラブでは、普段の行事などでもおこなっており、火おこしができる子どもがたくさんいます。

今回は、雨の後の湿気のせいもあり、種火は

何度も点きましたが、残念なことに炎は作れませんでした。

その後は、これも恒例となった『滝本ドラム缶の湯』。川のすぐそばで、ドラム缶に水を張り薪を燃やして作る手作りのお風呂です。

沢遊びをしてお風呂に入ったあとは、いよいよ自炊での夕食作りです。

この日のメニューは「焼きそば」でした。野菜切りから始まり、バーベキューコンロ2台とカセットコンロのフライパンで26食分を、自分たちでしっかり作りました。

夕食と片づけを終えたら、夜のプログラム「肝試し」と花火です。

肝試しでは、足元を照らすランプのみの間の中、勇気を振り絞り、山道を進みます。子どもたち全員が、ゴールへたどり着きました。

そのあとは、好き好きに持ち寄った花火で、暗闇と静けさを蹴散らすような色とりどりの光と煙を楽しみました。

【2日目】

早朝4時の小雨の後、5時前に元気に起きだす子どももいました。濡れた木を片手に焚き火をはじめ、静かに時間を過ごしました。

朝釣りを計画していた子どもたちは5時半から準備を始め、仕掛けを確認し、前日見つけたポイントに糸を垂らし始めました。



滝本の古民家母屋の前で記念撮影

今回は、自然塾始まって以来、初めて魚（ウグイ2匹とヤマメ1匹）を釣りあげることができました。

朝食後は、滝本からとなり山の「冒険広場」に向けて出発です。

事前に予定していた道が、7～8月の間の豪雨や大風のため危険な状態だったので、急きょルートを変更し、車道から沢をのぼり滝のあるところに辿り着きました。滝にうたれ、沢蟹や川原の石を見つけるなど、思い思いに過ごしました。

カップラーメンの昼食後、降りだした小雨の中、「つつつ温泉」に行き体を温めて、滝本の宿泊場へもどりました。

簡単テントで雨よけ対策をととのえ、夕食は夕食作りを始めます。お米とぎから食材の下準備、BBQコンロによる仕上げまで、すべて自分たちで行います。雨足が強くなってきたため、この日の夕食は滝本の古民家（母屋）内でいただきました。

そして夜のプログラムは、雨の合間を縫ってのキャンプファイヤーです。

火を囲み、みんなで『団結踊り』を踊り、「自然塾」に対する一人ひとりの感想、思いを出し合いました。

【3日目】

まだみんなが寝静まっている早朝。前日の釣果に触発された中学生男子がひとり、静かに糸を垂らしていると、この日も3匹の魚がかかりました。

10 cm台のヤマメは保護のため放流し、23 cmと25 cmのニジマスは子ども達と相談して1匹は来年の夢のため放流。一番大きい1匹だけは「焼き魚」として、みんなの朝食用に調理しました。

この日の朝食は和食です。味噌汁は、だしから取った本格派、ごはん、目玉焼き、海苔、サラダ、そして、食卓に燦然と輝く「焼き魚」。頭から骨まですべておいしくいただきました。

楽しく過ごした自然塾も、帰り支度の時間です。

「閉村式」では、大人スタッフから子どもたち一人ひとりに、手作りの修了証を手渡しました。今回で参加が最後となる中学3年生には、これも手作りの「卒塾メダル」を、感謝をこめて渡しました。

＊

帰りの電車では、出身学童クラブや学年の壁もなく、みんな以前からの友達のように、すっかりうちとけていました。

そして16時には田無駅に全員無事に帰ってくる事ができました。

駅に出迎えてくださった保護者の皆様、そして「自然塾」にご理解とご協力をくださった皆様、ありがとうございました。

（理事：松本毅、加藤泰）



子どもたち全員に修了証を渡しました

スタッフ：

下山 涼太（北原学童クラブ卒所／高校生）

【職員】草苺 龍、大和 美恵子、栗原 孝枝、高橋 明子

【理事・評議員】永井 昌史、松本 毅、加藤 泰、古谷 健太

自然塾を終えて

（学童クラブ指導員スタッフより）

「ここ東京？」と言う程に見渡す限り周りを山で囲まれ近くを流れる川の水音が聞こえ、夜になれば満天の星空が広がるような本当に自然豊かな所です。五感全てを使って自然をいっぱい感じながら毎年子どもたちがいきいきと躍動する姿があります。それぞれ違う学童の卒所児でありお互い知らない者同士ですが、この2泊3日を共に過ごす中で、行く時には緊張している子どもたちの表情からは想像もつかないくらい打ち解け合い、帰りには名残惜しそうに別れていく子どもたちです。

今回は第1回目から参加していた子が高校生となり大人側のスタッフとして参加してくれたことが何よりも嬉しい出来事でした。スタッフとなって参加した彼は、小学生と中学生を繋ぐ架け橋とになってくれて、初めて参加した子どもたちの気持ちを和ませていました。また自然塾を終えてからも「だがしや楽校」で展示するパネル作りでは、参加した子どもたちのほとんどが集まり、みんなで賑やかに取り組む様子があり学童の枠を超え繋がっていることの実感をしています。

こうやって学童に通っていた子どもたちが卒所してからもずっと繋がっていける機会こそが、自然塾なのではないかと思い、またその果たす役割は、子どもたちにとっての大切な居場所や帰る場所作りに繋がっていくのではないかと感じています。

（草苺龍、大和美恵子）

アミーゴ 子ども支えあい事業報告・2

だかしや楽校開催

9月14日（日）恒例のだかしや楽校を開催しました。当日は晴天に恵まれ約600名の方にご来場いただきました。

7年目となるだかしや楽校もすっかり地域に定着したように思います。

交流のある福島県いわき市の四倉児童クラブからもバスをチャーターして50名の方が参加してくれました。

だかしや楽校は山形で生まれたイベントで、公園などを「自分を見せる、自分店」で、まるで駄菓子屋のようにするというものですが、アミーゴでは、私たちが大切にしている学童保育を見せる（店る）場、という意味も込めています。

オープニングでは、子どもたちのハニカミながらの開校宣言から始まり、それぞれ個性豊かなお店が見られました。谷戸学童クラブのお店では、ベーゴマ大会や名人戦、ベーゴマ大会の準決勝・決勝の子どもたちの真剣勝負は、見ているこちらにも手に汗握るほどお互いの力が拮抗した、名勝負となりました。

北原学童クラブのお店では、人形劇があり、向台第二学童クラブのお店では、恒例の「巨大コリント」（大きなパチンコ台のようなもの）、ひばりが丘第一のお店では、去年に引き続き「大学おとし」（田の字を書いたコートで、4人でボールを打ち合うゲーム）で盛り上がりました。

向台学童クラブのお店では、突然子どもたちのダンスが始まるなど、うれしいハプニングもありました。

アミーゴ理事が中心になって出店したお店では、定番のアミーゴ焼きの他、大人気の玉こんにゃくや駄菓子屋、飲料のお店を出し、四倉学童クラブからは、手作り品の出店がありました。



うれしいハプニング！ 子どもたちのダンス



ベーゴマ大会は大盛り上がり！

また、近隣地域の他団体からも出店いただき、「くるみえ」さんからは、巨大ガチャガチャ、「向台畑クラブ」さんからは、あつあつほくほく！のじゃがバター、「ウーノの会」さんからは手作りパン、といった形で参加いただきました。

食べ物はどれも好調でしたが、特に手作りパンは開校から30分で売り切れるほど大人気でした。

エンディングでは、去年から恒例になっている「勇気100%」の合唱で子どもたちが力強く歌っているのが印象的でした。

来年もまた、スタンプラリーのカードを片手に楽しそうにお店を回る子どもたちの姿が見られるよう、ご理解ご協力をお願いいたします。

（理事：加々見辰也）



駄菓子売り場は、いつも大盛況



定番、好評の「アミーゴ焼き」です

震災復興支援プロジェクト

2011年の東日本大震災直後に、全国学童クラブ連絡協議会の依頼により、当団体の高橋理事（当時）が福島県いわき市の児童クラブ支援のために現地に入りました。そのことがきっかけとなりスタートした支援プロジェクトも、今年で4年目を迎えました。

開始当初は、被災地の児童クラブの支援を主眼としていましたが、一定の復興も進む中、徐々に「支援する、される」の関係から、学童クラブに携わる団体どうしの交流を通して、互いの学童保育が充実していけるよう助け合うという「共助」を目的とした事業に変わりつつあります。

今年は7月にアミーゴより職員他計4名がいわき市を訪問、現場目線で、8月の交流事業の内容を検討しました。それを受け、8月8～9日に、四倉児童クラブの児童、指導員、保護者総勢57名を西東京市に招待しました。向台、向台第2学童クラブを見学し、西東京側は3施設から100名近くの学童児が交流事業に参加しました。前日から児童も加わり準備した流しそうめんによる昼食会を行い、その後は学童で普段行われている遊び、室内ではドッジボール、Sケン（集団で行う陣取りゲーム）、ベーゴマ、マンカラなど、屋外ではネコバスをかたどった遊具やロープブランコでの遊び、マッチもライターも使わない原始の火起こし体験などを、アミーゴの学童で行っている様々な活動を体験しました。宿泊は都内江東区有明の青少年施設で、翌日の午前中に施設のプールで存分に遊んだ後、午後2時過ぎにいわき市へと出発しました。

9月14日に開催された「だがしや楽校」には、四倉児童からチャーターバスに総勢50名で駆けつけてくれて、特産品などの販売ブースが出店されました。職員、理事で構成する震災復興支援部会として、夏の交流事業の写真パネル展示などを行い、イベントの最後にはいわき市と西東京市の子どもの元気な合唱で幕を閉じました。
（副代表理事：佐藤文俊）



さあ、流しそうめん開始！



ワイルド、Sケン、女子も強い！！

アミーゴの活動を支援してください

子どもアミーゴ西東京は、今年で設立から9年目を迎えています。活動や事業の土台となる財政基盤の確保のため日夜努力をしていますが、その収入のほとんどを市からの委託金で賄っているのも現状です。地域のすべての子どもたちのために、という大きな目標に向かい活動を継続していくには、皆さんからのご支援がこれからも欠かせません。どうか、今後ともご支援いただきますよう、お願いいたします。

【支援方法】

1) ボランティアとして活動に関わる

私たちがおこなうイベントや活動に、ボランティアとして関わってください。

2) 会員になる

私たちの活動や考えに賛同いただけたら、会員になってください。会費は年3000円です。イベントのお知らせや「アミーゴ通信」などをお送りいたします。

3) 寄付をする

直接的な活動への関わりはできなくても、共感や応援の気持ちを「寄付」という形で表していただけだけでも、私たちには大きな力となります。

振込先：郵便振替：記号番号 00130-0-55814

三菱東京UFJ銀行 東松原特別出張所（319）口座番号：3743180

口座名義：特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京

☆詳しくは、事務局までお問い合わせください。→TEL 042-478-0056 メール info@kodomoamigo.org